

■平成27年7月21日（火）総務警察委員会県内調査

1 奈良県警察学校（奈良市今市町585）

【調査目的】警察官・警察職員への警察教養について

【概要】

① 警察教養について

- i 警察学校は、新たに採用された警察官及び一般職員に職務の遂行に必要な基礎的な知識と技能を修得させる警察教養、或いは現任の警察官は、途中現場に出、現場でも教養を重ねながら、再度警察学校に戻ってきて再度教養するシステムになっている。
- ii 教養の内容については、警察庁から採用時教養の実施要項の規定があり、教養の期間、学級の編制、授業の時間、授業の細目が細部にわたって示されている。全国の都道府県警察で教養実施計画を策定し、それに沿って教養を実施している。
- iii 採用時教養は「初任科」といい、大学卒業資格で6ヶ月、高校（短大等含む）卒業資格で10ヶ月間。「初任科」卒業後、職場実習が3ヶ月間、それぞれの警察署（現場）で初任の教養を受ける。その後、「初任補修科」として、再度警察学校に戻り、現場を体験した上での補足の教養を受けることになる（大卒資格者で2ヶ月間、高卒資格者で3ヶ月間）。「初任補習科」卒業後は、実践実習ということで、再度警察署に戻りそれぞれ4ヶ月と5ヶ月の教養を終えて、「初任科」教養が終わる。通算、大学卒業資格者で15ヶ月間、それ以外（高校、短大、専門学校卒業者）で21ヶ月間の教養期間を終えて一人前の警察官として現場に配属される。

② 歴史及び現況等について

i 歴史

- ・ 警察学校は、明治21年（1888年）2月に「巡查教習所」として開設。
- ・ これまでに約7,400名の警察官を輩出。

ii 現況

- ・ 校訓：自立・錬磨・友愛
- ・ 教職員数：23名
- ・ 学生数：115名
内訳 第343期初任科短期課程 21名（内女性4名）
第343期初任科長期課程 58名（内女性8名）
第341期初任補修科長期課程 36名（内女性8名）

iii 唯心寮

- ・ 初任科教養は全員寮生活となる。男性は唯心寮、女性は別館4階に女性専用寮とし、建物を別けている。

iv 女性警察官の採用状況等

- ・ 昭和37年9月に10名採用（当時は「婦人交通指導員」）、昭和38年7名、昭和39年2名、昭和49年4月に23名（当時は「婦人警察官」）、昭和59年58名、昭和63年5名、平成2年7名を採用。平成4年以降は毎年採用されている（平成7年からは「女性警察官」）。
- ・ 現在220名（内2名は他府県出向）

③ 沿革

明治21年2月	県庁構内に巡查教習所を開設
昭和29年7月	奈良県警察学校と改称
昭和42年3月	現在地に移転新築
昭和55年3月	別館竣工
平成11年4月	警察学校施設整備5カ年計画開始

平成12年3月 体育館竣工
 平成14年3月 学生寮（唯心寮）竣工
 平成16年3月 本館竣工（警察学校施設整備5カ年計画完了）

④ 学校施設の現状

i 土地

名称	所在地	敷地面積	備考
奈良県警察学校	奈良市今市町585	15,075㎡	
同 分庁舎	奈良市南永井町 甲122、乙33-1	7,007㎡	体育館・射撃場
計		22,172㎡	

ii 建物

施設名	建築年月	構造	延べ床面積	概要	
本館	H16.3	RC造 3階建	2,148㎡	学校長室、教職員室、医務室、図書室、教場、大教場、食堂等	
別館	S55.3	RC造 5階建	1,623㎡	講堂、視聴覚教場、教場、寮	
唯心寮	H14.3	RC造 4階建	2,742㎡		
分庁舎	体育館	H12.3	RC造 2階建	1,650㎡	
	射撃場	S47.3	RC造 2階建	1,169㎡	



2 奈良県橿原総合庁舎（橿原市常盤町605-5）

【調査目的】 中南和地域の出先機関等の統合・集約について

【概要】

① 中南和地域の出先機関等の統合・集約について

i 経緯

ア 平成16年度から平成20年度にかけて県立高校再編による大規模な跡地が発生したことから

老朽化した施設や低利用の施設が多数存在しており、その活用や処分が課題となっていた。

イ 平成20年10月「県有資産の有効活用に関する基本方針」を策定し、売却・貸付可能な資産の整理とともに、施設の再配置に取り組むことにした。

- ・ 第1弾として、平成21年2月に「北部地域再配置計画」を策定し、旧片桐高校を郡山総合庁舎にリニューアルし、そこに北部地域に散在していた事務所等を集約した。

- ・ 第2弾として、中部地域にある出先機関を集約して橿原総合庁舎とした。

ウ 県有資産の有効活用の取組については、平成25年1月「奈良県ファシリティマネジメント推進基本方針」を策定し、保有総量の最適化、県有資産の有効活用、長寿命化の推進を3つの柱として取り組んでいる。

ii 中部地域再配置計画

ア 県中部地域の県庁勢力を結集し、効率的・効果的な事業実施を目指すとともに、小規模老朽施設、耐震性の無い施設の改修費を節減することを目的としている。

イ 平成22年7月から検討を開始し、平成23年11月に中部地域再配置構想を策定の後、関係市町村との調整を経て、平成25年2月に「中部地域再配置計画」を策定。平成25年10月から平成26年11月にかけて旧耳成高校の改修工事を行った。

ウ 移転する施設としては、耐震改修が必要な施設（高田総合庁舎・桜井総合庁舎）と小規模施設で老朽化の進んでいる施設（中部農林事務所土地改良課・桜井土木事務所）を対象とした。

一方、集約先の施設としては、耐震性のある大規模な用途廃止施設（旧耳成高校）をターゲットとした。

エ コストについては、既存施設を改修した場合は約21億円、集約施設を改修した場合は約16億円で差引5億円の節減と試算。

オ 中部地域の再配置については、関連施設の整備ということで、統合集約する事務所等の所在地（大和高田市、桜井市、吉野町）に関しては、大和高田市には県税事務所、保健所の窓口機能を設置することにより、利用者の利便性、行政サービスの低下を招かないよう旧高田総合庁舎1階に消費生活相談センター・中南和相談所の移転とともに設置。吉野町についても、吉野町中央公民館内に県税事務所の窓口機能を設置。宇陀市については、宇陀市菟田野地域事務所内に宇陀土木事務所と東部農林振興事務所を移転し、災害時等に連携強化が図れるようにした。

カ 改修工事概要については、総工費約16億円、うち15.4億円は地域の元氣臨時交付金を活用し、県費の負担軽減を図っている。

キ 工事の主な特徴としては、既設窓に内窓を付けることによる二重サッシ化、来庁者の多い1階、2階については県産材を使用した木質化、屋上部分を庭園として整備。

② 奈良県橿原総合庁舎の概要について

i 概要

ア 前身は、昭和58年開校の県立耳成高等学校で、平成18年に県立畝傍高等学校に統合されるまでの間、校舎として利用。その後、平成25年の中部再配置計画に基づき改修工事に着工し、翌年竣工。平成27年1月5日から橿原総合庁舎として運用開始。

イ 施設概要

- ・ 敷地面積：16,155㎡
- ・ 延床面積：9,742㎡
- ・ 構造：鉄筋コンクリート4階建（北棟4階・屋上庭園、南棟3階）

ウ 入居施設（7所属が入居）

- ・ 中南和県税事務所
高田、桜井、吉野の3県税事務所が統合され、1月5日から業務を開始。
- ・ 南部東部振興課、移住・交流推進室
南部東部振興課は1月19日に県庁から移転、移住・交流推進室は4月設置。
- ・ 中和福祉事務所

高田総合庁舎から1月5日に移転。

・中和保健所

葛城、桜井保健所が統合され、2月16日から業務を開始。

・農村振興課再編対策係

2月2日に橿原市畝傍町の事務所から移転。

・中部農林振興事務所

それまで、高田、桜井総合庁舎に分散されていたが、2月2日からは一つの事務所として橿原総合庁舎で業務を開始。

・中和土木事務所

1月19日に、桜井土木事務所及び宇陀土木事務所の一部を統合し、橿原総合庁舎で業務を開始。

・本年1月5日の県税事務所、福祉事務所の移転に始まり、2月16日に中和保健所が移ってきたことで、全ての事務所が集合し本格的に稼働。

オ 職員数は、7所属で約260名。

カ 特徴

・旧耳成高等学校の運動場の部分がまほろばキッチンとして利用されているため郡山総合庁舎（旧片桐高等学校）と比べ敷地面積が狭くなっている。

・大和平野を一望できる屋上庭園を整備しており、万葉集にゆかりのある地域性・歴史性を活用した庭園となっている。屋上庭園は、年中、午前9時から午後5時30分まで開放（土日祝日・年末年始も開放）。1月の開園以来、1日平均60名から70名の利用がある。月間2,500人程度（現状1,800人程度）の方が来園していただけるようにPRしていきたい。また、まほろばキッチンとの相乗効果で、屋上庭園へもより多くの来場者が期待される。

《質疑応答》

Q：職員は260名だが、職員以外にもいるのか。

A：260名の職員とそれ以外に業務委託している業者がおり、それと、来庁者が日に5,500人程来られる。

Q：まほろばキッチンから入ってきたところの通路は開放していないのか。

A：職員駐車場として一部利用している横にまほろばキッチンと総合庁舎間の連絡通路が設定されている（セミナーハウス横が抜けれることになっている）が、わかりにくいのでうまく対応し、屋上庭園への来場者の増加につなげたい。

